

令和6年度 定期巡回随時対応型訪問介護看護 外部評価表 こぶし24時間ケアサービスステーション美沢

(別紙1)

自己評価・外部評価 評価表

タイトル 番号	タイトル	項目 番号	項目	自己評価				外部評価 コメント
				実施状況				
				できている	できていない ことが多い	できていない ほとんどない	できていない 全くない	
コメント								

I 構造評価(Structure)【適切な事業運営】								
(1) 理念の明確化								
①	サービスの特徴を踏 まえた理念の明確化	1	当該サービスの特徴である「利用者 等の在宅生活の継続」と「心身の機 能の維持回復」を実現するため、事 業所独自の理念を掲げている	8	1			事業所理念を法人・園の理念と一緒に掲げてい る。理念に沿った事業所運営を行っている。 ・理念に基づいたサービスを行っている。 ・職員への周知が難しいと思うが、どのようにされ ているか知りたい。 ・理念がよくわからないので、会議の資料の中に 記載されているとわかりやすい。

S								
①	専門技術の向上のた めの取り組み	2	管理者と職員は、当該サービスの 特徴および事業所の理念につい て、その内容を十分に認識している	7	2			業務計画の作成の上で理念や目標に沿って作 成し年度初めに説明、周知している。 ・目標の共有は図られている。 ・年度初めの説明だけでなく、ミーティングの都 度確認し、意識できると良い。 ・年度途中での進捗状況の確認も必要。
		3	運営者は、専門技術(アセスメント、 随時対応時のオペレーターの判断 能力など)の向上のため、職員を育 成するための具体的な仕組みの構 築や、法人内外の研修を受ける機 会等を確保している	5	4			技術向上のための個別目標を作り、達成の為 に研修の機会を設けている。研修はオンライン視 聴ができるように工夫し柔軟に対応している。法 事内外の研修も随時告知して研修の機会を設 けるようにしている。 ・個々の勤務に合わせて必要な研修を受けられ るよう工夫されている。 ・個別目標は振り返りの機会を設けることが大切 ・オペレーターの判断能力向上については手立 てがあるのか知りたい。

		4	管理者は、サービス提供時の職員の配置等を検討する際、職員の能力が最大限に発揮され、能力開発が促されるよう配慮している	5	4		職員と面談で個々の話を聞いた上で適性に合った訪問業務や仕事の分担を行っている。	・職員の能力も様々であるが、個々の意見を取り入れ配慮すること、業務の平準化が難しい。 ・日々の会話などを通じ職員との関係性の構築や、能力を少しでも引き出せるようになると良い。
②	介護職・看護職間の相互理解を深めるための機会の確保	5	介護職・看護職の間で、利用者等の特性・状況に係る相互の理解・認識の共有のための機会が、十分に確保されている	8	1		フェニックスネットを利用した情報の共有を行い、必要時には電話連絡、担当者会議の開催で相互の認識を共有し、問題解決に向けた取り組みを行っている。	・フェニックスネットを有効活用され、記録から読み取れることが多く、情報共有に役立っている。 ・「変化あり」で記載してもらうと目に留まりやすいので活用して頂きたい。
(3) 適切な組織体制の構築								
①	組織マネジメントの取り組み	6	利用者等の特性に応じた柔軟なサービスを提供するため、最適且つ柔軟な人材配置(業務・シフトの工夫)を行っている	7	2		利用者の訪問時間に合わせた出勤時間のシフト作成や個別ケアに対応できるような調整も行っている。	・利用者に合わせた対応や調整は難しいことと思うが、素晴らしい。 ・アンケート結果から訪問時間にばらつきがあると指摘があったが、事前に訪問時間を伝えたり、極力調整に努力されている。
②	介護・医療連携推進会議で得られた意見等の適切な反映	7	介護・医療連携推進会議を適時適切に開催すると共に、得られた要望、助言等(サービスの過少供給に対する指摘、改善策の提案等)を、サービスの提供等に適切に反映させている	6	3		推進会議で得られた意見は次年度の業務目標に反映し改善を目指している。取り組みの詳細を職員全員に周知し事業所全体の取り組みとしている。	・推進会議は多職種から様々な意見がもらえる為、次年度の目標に反映し事業所全体で取り組んでいただきたい。 ・推進会議がとても良い学びの機会となっている。双方で協力できることがあれば取り組んでいきたい。
(4) 適切な情報提供・共有のための基盤整備								
①	利用者等の状況に係る情報の随時更新・共有のための環境整備	8	利用者等の状況について、(個人情報管理に配慮した上で)必要に応じて関係者間で迅速に共有できるよう工夫されている	8	1		フェニックスネットを通じて関係機関と迅速な情報共有を行っている。連携していない事業所には電話連絡で情報を伝える。基本情報への反映は都度管理者やサービス提供責任者が変更している。	・できるだけ状況、変更点をICTで伝えるようにしている。 ・連携できる事業所が増えると良い。連携が進まない事業所の要因は何か？

[illegible]

(1) 共同ケアマネジメントの実践

①	利用者等の状況の変化についての、ケアマネジャーとの適切な情報共有及びケアプランへの積極的な提案	22	ケアマネジャーとの間で、利用者へのサービス提供状況、心身の機能の変化、周辺環境の変化等に係る情報が共有され、サービスの提供日時等が共同で決められている	8	1		フェニックスネットや電話連絡で情報を共有し、状況の変化に応じアセスメントを行いヘルパー間で話し合い適切なケアを行えるように提供日時を共同で決定している。	ケアマネアンケートから、共有に関して、どちらともいえないと答えたケアマネが数名いた為、その原因と対応について検討してもらいたい。
		23	計画の目標達成のために、必要に応じて、ケアプランへの積極的な提案(地域内のフォーマル・インフォーマルサービスの活用等を含む)が行われている	5	4		日々の援助を通して利用者の変化をケアマネと情報共有し必要な支援内容を提案している。	情報共有を密に行い、保険内外の支援をうまく連携できるようにしてほしい。
②	定期的なアセスメント結果や目標の達成状況等に関する、多職種への積極的な情報提供	24	サービス担当者会議等の場を通じて、利用者等の状況や計画目標の達成状況について、多職種への情報提供が行われている	8	1		サービス担当者会議やフェニックスネットを通じてのモニタリングで利用者の状況、計画達成状況の情報提供を多職種に行っている。	・利用者の状況や計画目標の達成状況は、わかりやすく情報提供されている。 ・看護のアセスメント訪問のみの利用者は、担当者会議録が頼りになる。また居宅サービス計画書を書類に入れてもらおうと共有できる。

(2) 多職種連携を通じた包括的・継続的マネジメントへの貢献

①	利用者の在宅生活の継続に必要な、利用者等に対する包括的なサポートについての、多職種による検討	25	利用者の在宅生活の継続に必要な、包括的なサポート(保険外サービス、インフォーマルケア等の活用を含む)について、必要に応じて多職種による検討が行われている(※任意評価項目)	3	2		利用者の在宅生活継続の為、保険外サービスの活用を提案するなどしている。	保険外サービスについても、提案できるよう知識を持っていなければならない。必要に応じて多職種とも検討が行えると良い。
		26	病院・施設への入院・入所、及び病院・施設からの退院・退所の際などに、切れ目のない介護・看護サービスを提供するために、必要に応じて多職種による検討や情報の共有が行われている(※任意評価項目)	3	1		退院時のカンファレンスでは在宅する上でサービスが途切れないように検討や情報の共有を行い訪問計画に反映させている。またショートステイからの退所で訪問に穴がないように提供票の確認をケアマネ、ヘルパー双方で行っている。	・医療との関係が十分に行えることで在宅生活がより安心出来るものになる。 ・退院が急に決まり、カンファレンスがないままサービスに入らなければならないことはなかったか？ ・ショートステイからの入所中の情報がとりづらいことはないか？
②	多職種による効果的な役割分担及び連携に係る検討と、必要に応じた関係者等への積極的な提案	27	地域における利用者の在宅生活の継続に必要な、包括的なサポート体制を構築するため、多職種による効果的な役割分担や連携方策等について検討し、共有がされている(※任意評価項目)	2	2		在宅生活の継続のためにサービス担当者会議を行い情報の共有を行い統一した目標に向けた援助内容の確認を行っている。	担当者会議の機会で共有されることが多職種間で大切。

3. 誰でも安心して暮らせるまちづくりへの参画

(1) 地域への積極的な情報発信及び提案

①	介護・医療連携推進会議の記録や、サービスの概要及び効果等の、地域に向けた積極的な情報の発信	28	介護・医療連携推進会議の記録について、誰でも見ることのできるような方法での情報発信が、迅速に行われている	8	1		介護・医療連携推進会議録と外部評価は誰でも閲覧できるように常設している。	・議事録が速やかに配布され、発信は出来ているが、反応や意見はどうか？ ・常設をしての周知は難しいと思うが、何かされているか？
		29	当該サービスの概要や効果等についての、地域における正しい理解を広めるため、積極的な広報周知が行われている	5	2	2	病院向けの説明会や広報紙の発行、地域のサークル活動に参加して交流を深め介護に関しての知識を持ってもらっている。またサポートセンター美沢の見学をしてもらい広報、周知した。	
(2) 地域包括ケアシステムの構築に向けての、まちづくりへの参画								
①	行政の地域包括ケアシステム構築に係る方針や計画の理解	30	行政が介護保険事業計画等で掲げている、地域包括ケアシステムの構築方針や計画の内容等について十分に理解している	1	6		ヘルパー内研修で市の介護保険事業計画について毎年説明を行い、理解周知に努めている。地域包括ケアシステムの方針や計画についてもこぶし園の事業計画にもある為理解していきたい。	職員向けの研修をされ、周知に努めている。研修会などに参加し、少しずつ理解して頂きたい。
②	サービス提供における、地域への展開	31	サービスの提供エリアについて、特定の建物等に限定せず、地域へ広く展開していくことが志向されている	8	1		包括けさじろ圏域に対しサービスを広く展開している。	これからも引き続き、包括圏域を中心に柔軟な対応によりサービスを幅広く展開してもらいたい。
③	安心して暮らせるまちづくりに向けた、積極的な課題提起、改善策の提案等	32	当該サービスの提供等を通じて得た情報や知見、多様な関係者とのネットワーク等を活用し、介護・看護の観点から、まちづくりに係る問題認識を広い関係者間で共有し、必要に応じて具体的な課題提起、改善策の提案等(保険外サービスやインフォーマルサービスの開発・活用等)が行われている (※任意評価項目)	1	1		地域のサークルに参加し実際に生活する上での不安や心配事を聞く機会になっており、介護・医療連携推進会議の場で共有している。また個別避難計画についても地域単位で温度差があることや避難させる側の高齢化等問題提起してきた。	地域の場に出向き、実際の声を拾いあげている取り組みは素晴らしい。今後も地域と連携を図り、推進会議等で情報を共有できると良い。
Ⅲ 結果評価(Outcome)								
①	サービス導入後の利用者の変化	33	サービスの導入により、利用者ごとの計画目標の達成が図られている	8	1		モニタリングで評価を行い、目標達成したところはケアマネと連携し新たなサービス目標を利用者と共に考えていくように図られている。	日々の関わりの中で、目標を意識しながらケアがされている結果かと思う。モニタリングを行う側の見る目、技術の向上も大切。
②	在宅生活の継続に対する安心感	34	サービスの導入により、利用者等において、在宅生活の継続に対する安心感が得られている	6	3		利用者・ご家族へのアンケートからサービス利用の安心感が得られている事がわかる。一方持病の為不安を抱えている方に対して今後も寄り添ったケアを行っていく。	安心感のみならず、生活に欠かせないサービス。職員個々の寄り添いが安心を強くする。何が不安かアセスメントし、その方にとっての対応を考えることが大切。